

# 古代北陸道

奈良・平安時代のころ、<sup>りつりょうせい</sup>律令制がしかれ、中央と地方を結ぶ道が整備されました。そのうち現在の石川県を通る道は「古代北陸道」とよばれ、<sup>ほくろくどう</sup>野々市市内では<sup>とくもと</sup>徳用、<sup>みっかいち</sup>三日市、<sup>いなり</sup>稲荷の遺跡からその一部が見つかっています。このような<sup>かんどう</sup>官道は、中央と地方の伝達のための役人や、税などの物資のみが通行したとされています。



〈発掘された古代北陸道〉 三日市 A 遺跡  
2本の溝の間が路面で、幅は約8mあります。



●地点で古代北陸道が発掘されています。  
発掘地点を結ぶと、道がまっすぐ伸びていたことがわかります。

